

2008年7月11日

国土交通省推進「超長期住宅先導的モデル事業」に採択

国土交通省が推進する「超長期住宅先導的モデル事業」において、この度、住友林業株式会社（社長：矢野 龍 本社：東京都千代田区）は「住宅の新築部門」における提案が「超長期住宅先導的モデル事業」として平成20年7月7日付けにて採択されましたので、下記のとおりお知らせ致します。

記

1. 住友林業の当モデル事業提案・採択のポイント

基本性能の確保に加え、国産材の積極活用、耐震性・耐久性を高める構造躯体、アフターメンテナンスの充実など住まいの長寿命化を実現する先導的な提案として採択されました。

■ 「超長期住宅先導的モデル事業」採択提案概要・採択ポイント

住宅の新築部門

【住友林業】

提案概要

- ・ 「MyForest-大樹（超長期モデル事業）」
- ・ 「MyForest-BF（超長期モデル事業）」
- ・ 「MyForest-北海道仕様（超長期モデル事業）」

採択ポイント

以下のポイントが評価され、採択に至りました。

・ 冷暖房設備に頼りきらない「涼温房」の設計提案

次世代省エネルギー基準を上回る断熱・気密性能に加え、太陽・風・緑といった自然の恵みを活かした冷暖房設備に頼りきらない省エネルギーの住まいを実現する設計提案。

・ 強靱な構造躯体

耐震性・耐久性に優れた構造躯体を実現。

・ 国産材の積極活用

構造材や内装材への国産材の積極活用により、国内山林事業の活性化、森林環境保全など、地球環境保護への貢献。

・ 引渡し後の住まいを長期にわたり、サポートする

「ロングサポートシステム」

永く快適に安心して住んで頂けるよう、お引渡し後、お客様窓口にて24時間365日、専門の技術者が電話にてご相談に対応、さらに配線配管の交換等の容易性、記録・点検・保証を含めた長期維持管理システムを整備。また、建物譲渡に伴う保証の継続等、維持管理流通への取り組み。

2. 超長期住宅に関する取組みの背景

2006年の「住生活基本法」の施行により、住宅は造っては壊す“スクラップ アンド ビルド”の時代から、その資産価値が重視される時代へと移行しようとしています。この「住生活基本法」を受け、政府により「200年住宅」に向けた施策が展開され、そのひとつが「超長期住宅先導的モデル事業」です。きちんとしたものをつくり、手入れをしながら永く大切に住み続けるという量から質、ストック重視の方向性が明確となり、資産価値を高めることのできる住宅は、今後の多様性にあふれる人々の生活様式に合致し、個人の資産、社会の資産として住宅の質に対するニーズが高まっていくと想定されます。

「超長期住宅先導的モデル事業」とは、「いいものをつくってきちんと手入れをして長く大切につかう」という住宅のあり方、考え方を具体的なモデル事業の形で広く社会に提示し、技術の進展や普及を図ることを目的としています。国土交通省が今年度より本格的にはじめた、いわゆる「200年住宅」の普及に向けての事業で、国が公募により住宅の長寿命化に貢献するモデル事業の提案を募り、採択された優れた提案については各社の住宅棟数については限定があるものの費用の一部を補助するという取り組みです。

3.住友林業の循環型社会へ向けた家づくりの提案

住友林業は、国土の1000分の1に相当する約40,000haの社有林を有し、1691年（元禄4年）の創業以来、木を植え、育て、活用してまた植えるというサステナブルな事業展開を進めて参りました。当社は、木を植えて育てる森づくりから、住宅として活用する家づくりまで一貫して「木」にこだわり、「木」に関わる事業に取り組んでいます。長く大切に使うほどに味わいを増す「木」は、きちんと手入れをすることで愛着が深まり、さらに世代を超えて住み継ぐ家づくりへとつながります。当社は、住む人が愛着を持って長く住み続けることのできる住まいの実現へ向けての家づくりを提案してまいります。

<本件に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。>

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション室 佐野・佐藤

TEL：03-3214-2270

FAX：03-3214-2272

以上